

## トラック輸送情報（平成27年4月分）

平成27年7月3日  
総合政策局 情報政策課 交通経済統計調査室  
担当：廣中、桑原 内線28723  
直通：03-5253-8346  
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

### 1. 特別積合せ貨物

#### (1) 本月の概況

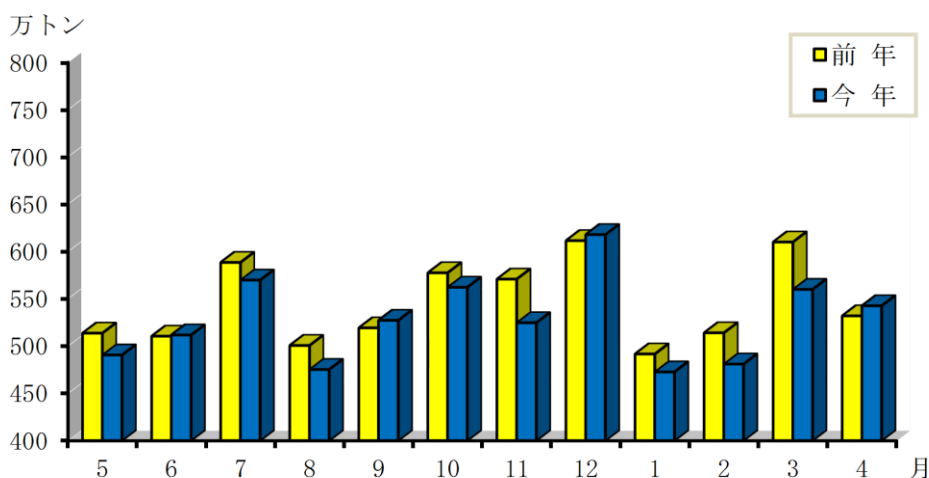
調査対象24社の本月の輸送量は、5,427,968トンで、前月と比べ総輸送量が約173千トン減少したため、前月比96.9%（季節調整済み97.8%）となり、前年同月との比較では、約106千トン増加したため、前年同月比102.0%の実績であった。

なお、平均稼働日数は24.2日で、前月と比べ0.4日減少し、前年同月との比較では、0.0日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、224,296トンで、前月と比べ約3千トン減少したため、前月比98.5%となり、前年同月との比較では、約4千トン増加したため、前年同月比102.0%の実績であった。

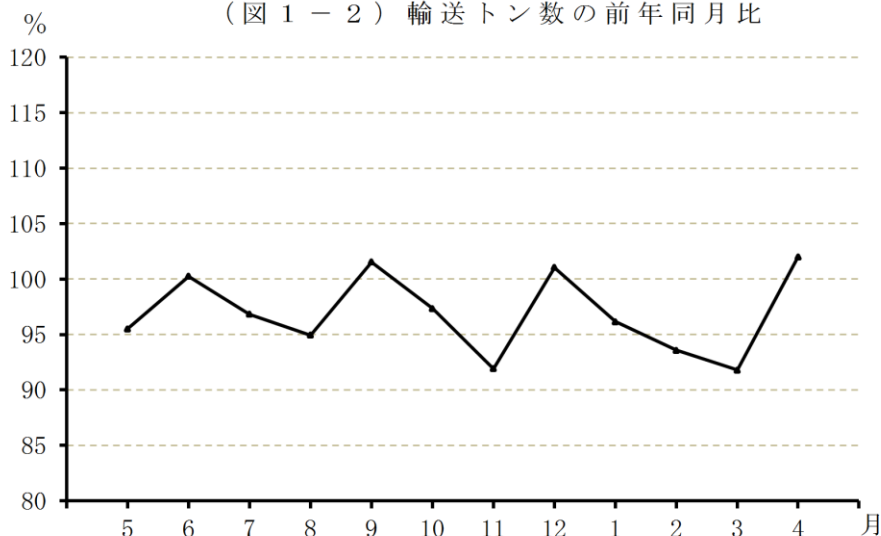
（図1-1、図1-2参照）

前月比及び前年同月比は、24社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は24社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

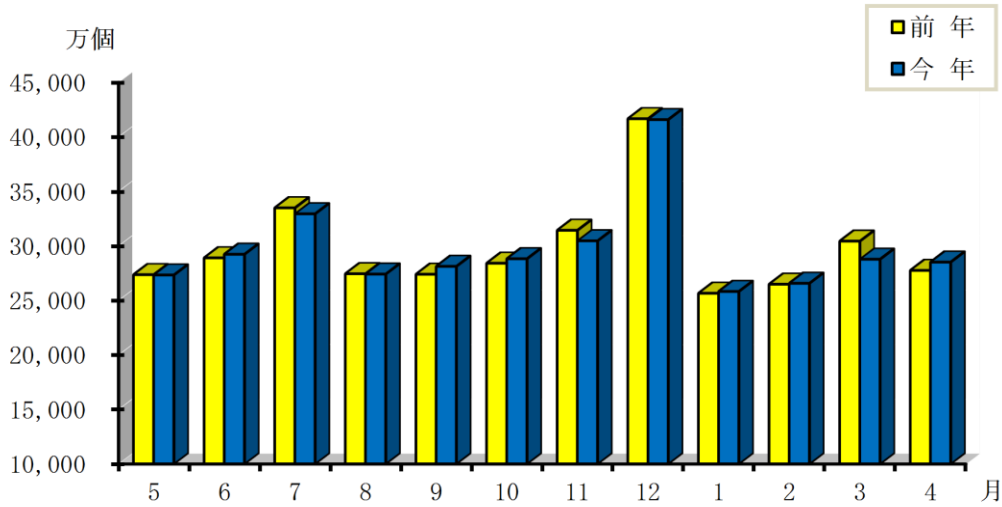


(2) 宅配便の概況

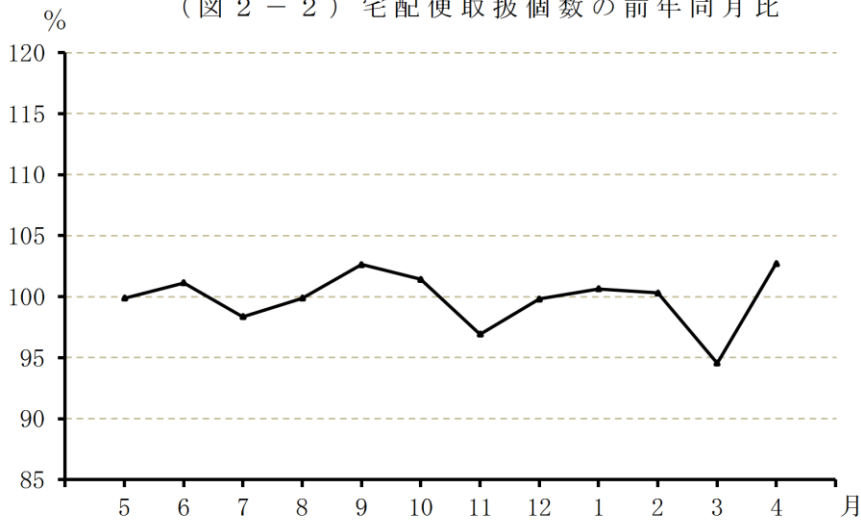
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 285,248 千個で、前月と比べ 約 2,634 千個減少したため、前月比 99.1% (季節調整済み 98.1%) となり、前年同月との比較では、約 7,598 千個増加したため、前年同月比 102.7% の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

調査対象 25 社 (24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) は、前月と比べると、「食料工業品」を除いた全ての品目において、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。その減少要因としては、工場・生産地からの貨物減が「機械」で、デパート、スーパーの貨物減が「その他」で見られた。地域については、愛知、近畿で減少したと回答する事業者があった。

前年同月と比べると、「食料工業品」で輸送量が増加し、「日用品」で輸送量が減少したと回答する事業者があった。「食料工業品」の主な増加要因は工場・生産地からの貨物増と倉庫から出る貨物増で、主な増加地域は「関東」、「北陸信越」、「近畿」であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因	
	著 増	増	変 ら ず	減 減				
前 月 に 比 べ て	農水産品		1	13	2	2		
	金属製品			17	4			
	機 械	1		12	7			
	化学工業品		3	13	6			
	繊維工業品			19	3			
	食料工業品	1	3	14	2		愛知	
	日 用 品			16	6			
	そ の 他			13	6	2	その他(百貨店配送品)	全国
							2, 8	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		4	11	1	1		
	金属製品		2	14	4			
	機 械	1	2	13	3			
	化学工業品		4	12	5		合成樹脂	大阪
	繊維工業品		1	17	2	1		
	食料工業品		5	12	2		その他の食料工業品	関東、北陸信越、近畿
	日 用 品		1	14	7			関東
	そ の 他		3	13	5			
							4	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者 815 社/調査対象事業者数 1,007 社)の輸送量は、前月比 97.3%、前年同月比 103.1%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	103.1 %	114.4 %	104.0 %	103.2 %	95.7 %	101.1 %	97.3 %	95.7 %	103.6 %	97.0 %	102.4 %	
前 月 比	97.3 %	102.9 %	99.3 %	96.9 %	91.9 %	96.1 %	95.1 %	90.4 %	94.8 %	97.5 %	95.9 %	

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比 102.9%、対前年同月比 114.4%であった。品目別では、季節的な需要増により「取り合せ品」が、工場・生産地からの貨物増により「化学肥料」が、また、「畜産品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」が、季節的需要減により「その他の石油製品」が、また、「紙・パルプ」、「廃棄物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比 99.3%、対前年同月比 104.0%であった。品目別では、「工業用非金属鉱物」、「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「揮発油」が、また、「砂利・砂・石材」、「その他の製造工業品」、「廃棄物」、「取り合せ品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比 96.9%、対前年同月比 103.2%であった。品目別では、「畜産品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「その他の農産品」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比 91.9%、対前年同月比 95.7%であった。品目別では、建設関連の需要増により「セメント」が、また、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」、「金属製品」が、季節的需要減により「その他の石油製品」が、また、「鉄鋼」、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比 96.1%、対前年同月比 101.1%であった。品目別では、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比 95.1%、対前年同月比 97.3%であった。品目別では、季節的需要増により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、決算後の出荷減少により「機械」が、また、「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>今月の輸送については、対前月比 90.4%、対前年同月比 95.7%であった。品目別では、季節的需要増により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「機械」、「その他の化学工業品」、「紙・パルプ」、「取り合わせ品」が、工場生産地からの貨物減が「機械」、「その他の化学工業品」が、また、「砂利・砂・石材」、「金属製品」、「セメント」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比 94.8%、対前年同月比 103.6%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「食料工業品」が、また、新規顧客の獲得等により「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「野菜・果物」、「その他の石油製品」、「取り合せ品」が、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」、「鉄鋼」、「機械」が、工場・生産地からの貨物減により「機械」が、また、「セメント」、「その他の窯業品」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比 97.5%、対前年同月比 97.0%であった。品目別では、デパート・スーパーからの貨物増により「食料工業品」が、季節的需要増により「野菜・果物」、「食料工業品」が、また、「穀物」、動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「機械」が、工場・生産地からの貨物減により「砂利・砂・石材」が、また、「木材」、「その他の製造工業品」、「取り合わせ品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比 95.9%、対前年同月比 102.4%であった。品目別では、「日用品」、「取り合わせ品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道			信							計
1. 穀物	増	1	2							2		5
	減		1						1			2
2. 野菜・果物	増		1					1	3	9		14
	減		1						7	4		12
3. その他の農産品	増					1		2		1		4
	減	1		1						1	1	4
4. 畜産品	増	2		1						2		5
	減							1		1		2
5. 水産品	増	1	1			1				2		5
	減	1							1	1		3
6. 木材	増	3	1		1			2	1			8
	減	3			1		1	2	1	5	1	14
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	1	1									2
	減	1										1
9. 金属鉱物	増								1			1
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	4				1				1		6
	減	12	2		3		1	2	4	4		28
11. 工業用非金属鉱物	増	1	2			1			2			6
	減	2							1			3
12. 鉄鋼	増		1		2			1		1		5
	減				4			1	4	2	1	12
13. 非鉄金属	増		1							1		2
	減		1		1			1				3
14. 金属製品	増				1		1			2	1	5
	減				4		1	3	1	2		11
15. 機械	増	1		1				1	1	2	1	7
	減	1		1	2	2	2	6	4	4	2	24
16. セメント	増	3	1		2	1				2		9
	減	2	2			1		3	2	5		15
17. その他の窯業品	増				1					2		3
	減		1		1	1	1	1	2	2		9

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増	1										1
	減	1	3		1			1				6
19.その他の石油製品	増	1						3				4
	減	8	1		3			2	2	4		20
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減											
21.化 学 薬 品	増											
	減									1		1
22.化 学 肥 料	増	3	1		1				1	2		8
	減							1		2		3
23.その他の化学工業品	増				1				1			2
	減	1						3	1	1		6
24.紙 ・ パ ル プ	増		2						1	2	1	6
	減	2						3	2	1		8
25.織 維 工 業 品	増											
	減		1			1			1			3
26.食 料 工 業 品	増	1	2	1	4		4	4	4	9		29
	減	2	3	1				1	3	3		13
27.日 用 品	増			1	1			2	2	1	2	9
	減	1	1	1			2	1		2		8
28.その他の製造工業品	増		1					2			1	4
	減		3	1	1			1	1	2		9
29.金 属 く ず	増											
	減									1		1
30.その他のくずもの	増								1			1
	減				1							1
31.動植物性飼・肥料	増	2	2		1					3		8
	減	2	2						2	1		7
32.廃 棄 物	増	1						1	3	1		6
	減	3	3			1		1	2			10
33.輸 送 用 容 器	増				1				1	1		3
	減				1							1
34.取 り 合 せ 品	増	2						2		3	2	9
	減		3		1			4	3	5		16
35.そ の 他	増	2	2	1	2		4	7		1	1	20
	減	3	4	3	3		7	7		3		30